

「新型コロナウイルスとの闘い、 在外の学校現場から」

メキシコ モンテレー補習授業校

目次

- ① 学校の規模や子どもたちの実態
- ② 現地の新型コロナウイルス事情
- ③ 新型コロナウイルスの対策を講じなければいけなくなった経緯
- ④ 実際の取り組み
- ⑤ 苦労した（している）こと
- ⑥ 喜びを感じた（感じている）こと
- ⑦ 今後への課題

①学校の規模や子どもたちの実態

- 2020年4月時点での児童生徒在籍予定数（小学生 31名 中学生9名 計40名）
- 来墨困難にて入学延期や一時帰国、本帰国時期を早めた家族もあり
- 5月2日WEB授業開始時点では （29名生徒が参加）
- 小学2年生・4年生は在籍児童ゼロのため不実施
- 小学6年生は児童1名で実施中
- 生徒児童は現地校でのWEB授業を受けている
- 小学1年生は現地幼稚園のWEBクラスを受けている者が多い

② 現地の新型コロナウイルス事情

- NUEVO LEON州の 感染者数 1,679名 死者 63名 (www.nl.gob.mx より)
- FASE 3 2020年5月19日現在

③ 新型コロナウイルスの対策を講じなければ いけなくなった経緯

- 2020年3月半ばにメキシコ政府より全面休校が宣言された。
- 当初イースター休暇あけの4月19日までの予定だったが休暇前には休校措置が延長されることとなった。
- 休暇が明ける頃にはすでにいつまで休校が続くのか確かな見通しが立たない状況となっており、現地私立校は休校宣言より間もなくオンライン授業を開始したことも受け、補習校でも授業の遅れが広がらないうちにオンライン授業の実現性の検討をし、講師と保護者の双方から合意が得られたので5月より実施する運びとなった。

④ 実際の取り組み

- 子どもたちや保護者の状況把握
（前述のとおり、数人の生徒は帰国を早め、また来墨を延期したりしたため）
- オンライン授業への切替えに対応できる教員の確保
（諸事情により教員2名がオンライン授業への参加が不可となった）
- 教科書の手配と各家庭・教員宅への配布
- オンライン授業への準備（Zoomの仕組みの理解や教員での共有）
- 不安定な接続への対応として、教師、またはクラスの過半数を超える生徒が接続不可となった場合、翌日曜日に振り替え授業を行う。
- 保護者も協力的であり、低学年の漢字テスト等の採点を行っている。

⑤ 苦労した（している）こと

- 教科書配付

- 配布予定日前日に児童生徒の移住地域がFASE 4に移行した。
政府からの通達で、人が集まることが禁じられているため、学校内及び学校駐車場周辺での配付を中止するよう学校オーナーから連絡あり、商業施設駐車場や公園、通りでも集まることが困難になり、児童生徒宅を1軒1軒訪問し配付した。
- 当日は効率よく配付出来るよう全家庭を3つのルートに分け、配付順を予め決めたルートマップを作成、位置情報機能を共有し、車が自宅へ近づいたら家の外で待機してもらった。
- 接触を避けるため、車のトランクを開け、自分のラベルの張ってあるものを各自取ってもらうなど工夫。
- 全教職員は別地域に住んでおり、児童生徒移住地域に立ち入ることも簡単ではなかった。
- 通常、児童生徒用教科書の仕分け作業は、教職員10名で20分位で終了するが、教員1名が自宅で行った。教科書問題集合わせて段ボール13箱あり、受け取り確認、学年ごとに仕分け、個人仕分け、配付用に袋詰め、ルートマップ順に箱詰め、名前ラベル張りなど合わせて10時間程かかった。
- 児童生徒はほとんど同じ地域に住んでいるため、配付時間は各ルート1時間程で済んだが、教師分配付（9人分）には、渋滞がない土曜の朝にもかかわらず5時間以上かかった。

- WEB授業

- 小学校は本年度から教科書が改訂になっているが、教師用指導書が手元にはないことは特に新任教員には大きな負担となっている。
- WEB授業第1週目の準備時間30時間を超える教員もいた。
- 多くの教員はPPを使用した授業作りを行っており、授業準備時間が通常の数倍にもなり苦勞している。
特に小学校低学年においてはよりわかりやすい教材作成のためPPによる作業が多くなる。
- 小学1年生、5年生分教師用指導書に加え、教科書そのものがなくコピーしたが、ページ数の10%しかコピーできない規則があり、苦勞した。
- WEB授業用にホワイトボードを探したが、入手困難であった。

- WEB授業をしてみて

- 画像や音声の遅れ、不安定な接続への臨機応変な対応が必要。
- 土曜、そして振替の日曜とも接続不良で授業がキャンセルとなったクラスがあった。

⑥ 喜びを感じた（感じている）こと

- 慣れないPC作業で作った資料が児童から「わかりやすかった」と評価されたこと。
- PC作動確認や自作教材、資料の意見交換を兼ね、教員同士で模擬授業を行っている。通常授業では行えなかった勉強会になり、ひいては親睦も深まっている。
- オンラインならではの画像やアニメーションを活用した授業が可能。
- 視覚に訴える授業ができるため、子供たちの反応もよく画面を見ながら色々な意見が飛び交う。

⑦ 今後への課題

- Zoomの有効な活用法の更なる模索。
- 有意義なオンライン授業の教材研究。
- オンラインでの子ども同士の関わり合いの確保。
- 書き方、書き順の確認や添削方法。
- 非常時、常時によらず、選択肢としてのWEB授業環境を常に整備する。
- デジタル教材（教科書、副教材）の併用。
- WEB授業体制を念頭においた年度当初計画と予算組み。
- その予算編成により第5世代対応の機器の検討。
- 筆記学習の維持と視覚に訴える授業（動画の活用）の並立。
- 実践する現場の人材教育。（教員研修）

- また、本校のみならず、教育機関、さらには社会全体としての今後の課題についても以下のような意見が出た。
- 現在ウェブ会議のためのアプリケーションを使って授業を行っており、使用に不便を感じることもある。
- 既存のウェブ授業を目的としたアプリケーションの改良または新たなものの開発が必要となるだろう。
- 例えば、パワーポイント、スマートフォン、タブレット、第二カメラ等の電子機器とのボタン一つで切り替え可能(現在のアプリケーションでは切り替えに時間や手間がかかる)、ワンタッチで特定の生徒にのみ指示が聞こえる機能、物流の停止により教科書が届かなかった場合にアプリで一時的に教科書が閲覧可能な機能など。
- 教科によって準備にかかる時間が公平ではないため、インターネットからダウンロードしてそのまま授業で使える各教科の教科書と連動したファイルや自宅学習のための機能も望ましい。
- 個人でウェブ授業の機材を所持していない、十分なネットワーク環境のない教師もいるため通常授業より教師が不足してしまう可能性があり、ハード面の充実と教員の確保も必要である。
- ただ、今回の問題でウェブ授業が一般的になり、技術が進歩することによって、何らかの理由で今まで学校に行けなかった不登校の生徒が家で気軽に授業が受けられることが出来るようになるかもしれない。
- その場合、その生徒が希望すればシークレットモードで他の生徒からは見えないようになる機能などアプリケーションの機能の充実と周りの人間の配慮が必要となるだろう。